

令和7年度

社会貢献事業

# 優秀実践アワード

(きらっと光る実践)

報 告 書

## はじめに

大阪府社会福祉協議会 老人施設部会の会員施設が、「私たちは、この地域(まち)を支えます」をフレーズに始めた社会貢献事業(生活困窮者レスキュー事業)は20年を越え、「オール大阪の社会福祉法人」が連携・協働して取り組む地域貢献事業の「大阪しあわせネットワーク」は令和7年度に10周年を迎え、現在、大阪版地域共生社会「大阪モデル」の実現を目指し、府域から各法人圏域まで重層的な事業の充実と分野や立場を超えた地域の基盤づくりを進めています。

これまで会員施設は、社会福祉法人としての役割を果たすため、制度では十分に支えきれない生活困窮の方に対し、物資の提供などの支援や、総合生活相談を行うコミュニティソーシャルワーカーの配置など、先進的な取り組みを行ってきました。

また、地域の課題やニーズに向き合い、それぞれの施設の専門性や強みを活かしながら、さまざまな地域貢献活動にも力を入れてきました。さらに、感染症の長期化や物価高騰、人材不足といった厳しい状況の中でも、関係機関や団体と協力し、地域の課題解決に向けて幅広い取り組みに挑戦しています。

こうした活動に注目し、継続性や独自性、先進性に優れた実践を行っている会員施設を表彰し、その内容を広く発信することを目的として、「優秀実践アワード(きらっと光る実践)」を実施しました。

本報告書では、12の実践事例とその選考結果を紹介しています。これらの取り組みを知っていただくことで、施設関係者の皆さまには地域での具体的な活動の参考にしていただきたいと思います。また、福祉を学ぶ学生や関心のある方々には、社会福祉法人が身近な地域で活躍していることを知っていただきたいと思います。

このような願いと期待をこめて、豊かな実践が広がることを目的にこの報告書を作成しました。発刊にあたり、あらためて、推薦書の提出や関係資料の提供にご協力いただきました皆様、選定にご協力いただきました選考委員の皆様に厚くお礼申し上げます。

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会  
老人施設部会長 西島 善久

## 目次

### (掲載事例・選考結果)

【大賞】	社会福祉法人 長寿会 「いつも・ここにある・いばしょ」砂川サロンいこいの軌跡	2
【優秀賞】	社会福祉法人 大阪自彊館 地域の孤立を防ぐ「見守りキーホルダー」交流会	4
【優秀賞】	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団) ヤングケアラーへの支援展開	6
【優秀賞】	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 「まだまだできることはある」挑戦への後押し～原田元町子どもランチを通して～	8
【優秀賞】	社会福祉法人 桃林会 みんなの力で「しらすぎのWA」～ケアマネがつなぐ地域の子カラ～	10
【奨励賞】 (多文化共生)	社会福祉法人 起生会 外国人介護士交流会	12
【奨励賞】 (福×学連携)	社会福祉法人 四恩学園 公立大学の学生と居場所「とびだせ ひみつきち」を作るプロジェクト	14
【奨励賞】 (コミュニティケア)	社会福祉法人 四天王寺福祉事業団 地域で育む障がい理解と高校生の社会体験～コミュニティカフェで進む共生社会～	16
【奨励賞】 (フレイル予防)	社会福祉法人 四天王寺福祉事業団 施設を活用し、地域と連携した住民主体の介護予防実践	18
【奨励賞】 (デジタルできっかけづくり)	社会福祉法人 聖徳園 スマ・カフェでお話を	20
【奨励賞】 (福祉・介護教育)	社会福祉法人 もくせい会 介護の魅力を子どもたちへ	22
【奨励賞】 (地域と協同・還元)	社会福祉法人 ライフサポート協会 地域と協同・地域に還元～続ける理由がそこにある～	24
	令和7年度 大阪府社会福祉協議会 老人施設部会 社会貢献事業「優秀実践アワード(きらっと光る実践)」募集要項(一部抜粋)	26

# 「いつも・ここにある・いばしょ」砂川サロンいこいの軌跡

## 大賞

## 社会福祉法人 長寿会

設立年月／平成5年8月  
 法人所在地／大阪府泉南市信達六尾547番地  
 理事長名／飯尾 学  
 施設名／特別養護老人ホーム六尾の郷  
 施設長名／杉山 美雪  
 施設所在地／大阪府泉南市信達金熊寺130番地  
 問合せ／☎072-480-2850 ☎072-483-3311  
 ✉houkatsu@chojukai.or.jp  
 担当：上川 敦

### 実践の目的や背景

#### 平成22年に『砂川サロンいこい』を開設

「地域住民がいつでも気軽に立ち寄りおしゃべりしたり、相談できるいこいの場を作りたい」という思いから、母体のある当法人の施設内ではなく、高齢化が進む山間部の新興住宅地に一軒家を借り上げて、住民が毎日でも歩いて行ける場所に『砂川サロンいこい』を開設。『砂川見守りネットワーク』※1と協働で地域の要望や困りごとに対応し、『地区ケア会議』※2とも連携することで、住民や小地域ネットワークの活動拠点にもなっている。

※1『砂川見守りネットワーク』：困りごとを抱えた高齢者を地域で見守り、支援する住民主体のボランティア団体。平成19年に当法人が立ち上げを支援。

※2『地区ケア会議』：福祉に関心の高い地域住民（民生委員、地区福祉委員、老人クラブ役員、郵便局、地元企業や商店等）と行政、地域包括支援センター、CSW等の専門職が個別ケースの共有や地域課題の掘り起こしを目的に、平成16年から毎月1回開催。

### 実践内容

開設時間／月～金の13:00～15:00（祝日開設、年末年始は除く）  
 利用人数／約70名（延）/月  
 共済金／100円  
 スタッフ体制／当法人の職員（介護支援専門員、社会福祉士、看護師、CSW等）が交代で常駐することで、サロンと相談所の両方の機能を備える。

#### 【実践内容】

平成22年 『砂川サロンいこい』開設  
 平成23年～ ①園芸活動開始（いこいファームで梅や柿、さつまいもを収穫し、シロップ作りや食事を開催）  
 ②映画上映会開催（年2回）  
 ③将棋大会開催（小学生が参加することで世代間交流の場に。年2回 平成30年まで実施）  
 ④ボランティア研修会開催（砂川見守りネットワークに対して研修会を開催）

- ⑤パソコンサークル開始（住民が講師となり月2回開催。令和4年まで実施）
- ⑥囲碁サークル開始（団地内に開業する医師も参加して週1回開催）
- 平成24年～ ⑦スカットボール大会開催（年1回）
- 平成25年～ ⑧お正月会（百人一首やかたるたを実施し、ぜんざいを提供）
- ⑨iPad教室開催（基本操作からネットショッピングの修得を目標にしたカリキュラムで週1回開催。平成28年まで実施）
- 平成27年～ ⑩移動販売誘致（地元商店の店主に依頼し、いこい駐車場で生鮮食品を週1回販売。平成29年まで実施⇒CO-OPの移動販売へ移行）
- 平成28年～ ⑪認知症に関する相談会開催（年1回）
- ⑫クリスマス会開催（住民が自主的に開催）
- ⑬キッズスクール開催（夏・冬休み期間中に世代間交流を目的に開催。令和元年まで実施）
- 平成30年 ⑭終活座談会開催（在宅や施設での看取りについて住民と長寿会介護職員が意見交換）
- 平成31年 ⑮消費者被害講座開催（高齢者に被害の多い悪質商法の手口と対策について寸劇を用いて周知）
- 令和3年 ⑯地域限定コミュニティバスオリジナル時刻表を地区ケア会議で住民と一緒に作成
- 令和4年～ ⑰より満ちスマホ講座開催（スマホについて気軽に相談が可能。毎月第2・4火曜日）
- 令和5年～ ⑱看護師による健康講座『げんき講座』開催（月2回）
- 令和6年 ⑲認知症サポーター養成講座開催

### 活動体制

- ①～③⑦～⑨⑪⑫⑬⑭⑯当法人職員が企画・開催
- ④社会福祉協議会や大学教授と協働
- ⑤⑥⑫住民が自主的に開催
- ⑩地元商店の店主や区長、砂川見守りネットワーク、民生委員、地区福祉委員と協働
- ⑬小学校校長（校区内）や砂川見守りネットワーク、元教師の住民、主任児童委員と協働
- ⑮関西消費者協会に依頼
- ⑯地区ケア会議や砂川見守りネットワークと協働
- ⑰⑱認知症キャラバンメイトと協働

### 実践の効果・成果

- ①～③⑦⑧各種イベントを開催することで、砂川サロンいこいの利用者が徐々に増加。
- ④砂川見守りネットワークとの連携がより強固となる。
- ⑤⑥⑫住民が自ら自主サークルを立ち上げ、男性の利用者が増える。

⑨地域でタブレットやスマホに関するニーズ調査（体験会や説明会）を行うことで、高齢者も興味を持っていることを知り「高齢者の生活を豊かに、便利にするために！」をキャッチフレーズに、iPad教室を開催。当時はこのような講座が珍しく、これを機にネットショッピングを始める利用者が増えた。→現在は⑰より満ちスマホ講座へ移行。

⑩「近くに買い物するところがない」という課題を解決するために、出張販売を開始。地元商店に依頼し、毎週ワゴン車いっぱいには食料品等を持ち参り、買った荷物を自分で持ち帰れない方には砂川見守りネットワークが自宅へ届ける支援を実施。店主の引退により「いこい」での出張販売は終了となったが、これを機に住民自らが地域にCO-OPの移動販売を誘致。⑨⑩により買物難民やヘルパーによる買い物支援を利用する方が減り自立へと繋がった。

⑬子どもの居場所作りと世代間交流を目的に夏休みと冬休み期間中に砂川見守りネットワークや元教師、主任児童委員が子どもの学習を見守るキッズスクールを開催。子どもに居場所と高齢者に新たな役割を提供することで双方にとって貴重な場となった。コロナ禍以降は休止中。

⑭特養職員の体験談「施設の看取り」を通じて、住民がACP（人生会議）の必要性を学ぶ機会となった。

⑮住宅内で高齢者世帯への「オレオレ詐欺」「クレジットカード詐欺」「訪問販売・買取」が多発。手口や対策方法を学ぶことで防犯意識と住民同士の見守りを強化。

⑯「運転免許を返納したからバスに乗ろうと思うんやけど、市役所が発行している時刻表が複雑でわからない」という声を受け、地区ケア会議と協働して地域限定のわかりやすいコミュニティバスオリジナル時刻表を作成。これを機に初めてバスに乗る方や買い物に行く方も増えた。

### 印象に残っている、もしくは力を入れた事例

⑰「コロナで心身の機能が低下した住民に再び元気になって

欲しい」と思い、看護師による健康講座『げんき講座』を開始。「日頃の不安や疑問を気軽に質問できる」と参加者が増え、住民が再び活動的になるきっかけとなった。

### 課題と展望

『砂川サロンいこい』開設から15年、その時々課題に対応するために、様々な取り組みを行ってきました。現在、継続中のものもあれば途中で中止になった活動もありますが、これからも新たな課題の掘り起こしと解決に向けた取り組みを継続していきたいと思っています。しかし、地域の担い手不足が深刻化する中、砂川見守りネットワークの活動も休止状態となっています。住民同士の助けあい活動の再構築に取り掛かると同時に、時代に合ったボランティア活動の仕組み（ポイント制）を行政に提案しています。

長期戦になると思いますが、公的なサービスだけに頼るのではなく、再び『地域の困りごとを地域で解決できるまち』を目指し、活動していきたいと思っています。

### 選考委員からのコメント

- 見事な地域のプラットフォームの取り組み。様々なプログラムも動いていて将来性もあります。
- 地域の居場所を拠点に、見守りや交流、健康づくりへとつながっていく“面の実践”だと感じました。住民が主体的に関わり続けられる仕掛けがあり、地域との関係づくりを丁寧に育てているところが強みだと思います。活動が単発で終わらず、地域の安心感につながっている点が好印象でした。
- 法人・施設内ではなく、高齢化が進む地域に一軒家を借り上げて新たな施設を作ることで、高齢者の方が自ら歩いて来られるのが良いポイントです。高齢者と子どもが集うサロンを開設・継続している点が興味深く、イベントも多数開催し、毎日足を運びたいと思います。

### 活動風景

